

介護予防講演会

町の社会福祉協議会と地域包括支援センターが主催する「介護予防講演会」が、3月13日にコミュニティセンター城里で開催されました。

講演会では、町の介護保険の現状報告に続き、県立健康プラザ管理者で医学博士の大田仁史さんによる基調講演「住民参加の介護予防～シルバーリハビリ体操指導士の活躍」、ボランティアグループ・いきいきヘルスどんぐりの寸劇披露、さらには「介護予防は高齢者が主役～私たちにできる、今日からできる介護予防」と題したシンポジウムが行われました。

シンポジウムでは、大田さんを座長に、高齢者代表の岩下金司さん、ボランティアグループ・桂うぐいす会の一杉常子さん、地域包括支援センターの町保健師、社会福祉協議会職員の4人のパネリストが意見を交わしました。自分の健康は自分で考える、高齢者が人と交流できる場所を作ることが必要、高齢者を支える地域力が必要不可欠といった意見が出されました。

大田さんは「城里町は、シルバーリハビリ体操の普及が県内でも進んでいる。1級指導士が3級指導士を養成する講座が開かれ、住民が住民を育てる段階に入っている。これからは「地域福祉」が大勢。住民は自信をもって進んで参加して欲しい」と話していました。



シルバーリハビリ体操3級指導士 新たに24人誕生

シルバーリハビリ体操3級指導士の養成講座が、2月27日から3月25日まで行われ、町民24人が資格を取得しました。

この講座の特徴は、1級指導士の町民が講師になっていること。1級指導士は、今年1月から県の認定が始まった資格で、町内の取得者は興野行雄さん、田上勇夫さん、磯部和子さん、入野きみ子さんの4人です。受講者は、解剖運動学など学科とシルバーリハビリ体操の実技について、4人の指導を熱心に受け、修了証を手に入れました。

新たな24人を含め町には、現在68人の指導士がおり、介護予防を進めようと地域での活動に取り組んでいます。



火災予防ポスターコンクールで 最優秀賞 石塚小 高岡莉奈さん

茨城県幼少年婦人防火委員会主催「第25回火災予防ポスターコンクール」において、石塚小学校の高岡莉奈さんが最優秀賞に選ばれ、2月21日に県庁で行われた表彰式に出席しました。県内の小中学生を対象としたこのコンクールには、水戸管内だけで約220作品の応募があり、高岡さんの作品は最優秀賞3作品の内の1作品に選ばれました。



こころの健康づくり 講演会

親と子の「こころの健康づくり講演会」が、2月26日に常北保健福祉センターで行われました。県精神保健協会会長の中原弘之さんによる「人生初期の心の育ち」と題した講演会に、子育て中の方や民生委員、母子愛育会会員など約60人が参加しました。

中原さんは、幼児期の子どものしつけについて「子どもから好かれている親でなければ、よいしつけはできない」とし、子どもに好かれるためには「子どもをしつかり見る。子どものリズムに合わせる。時間がかかっても子どもにやらせ、待つ。嘘などの子どもの行動のわけを考える。話を最後まで聞く」などが大切だと話しました。

事例を交えながらのわかりやすい講話に、参加者からは「子どもの気持ちに寄り添い、言動に関心を持つことの大切さを改めて感じた」「子どもに好かれる親でありたい」「この機会にもっと向き合ってみよう」といった感想があり、子どもへの心について考えるよい機会になったようです。



米澤不動尊の山門を 田町地区区長会が再建

石塚に米澤不動尊という小さなお堂があるのをご存知ですか。米澤不動尊は、今からおよそ155年前の弘化2年頃に旧石塚村で大発生した疫病を鎮めようと、現在の山形県米沢市に現存する米澤不動尊よりその分身を戴いて金剛院に寄せ、後に現在地に建立、米澤不動尊と命名されたと言われています。

これまで昭和55年に屋根替え、平成18年に外壁補修工事など付近の住民で維持管理されてきましたが、木製の山門が劣化し倒壊の危機にあつたため、建替えが行われました。建替え作業は、田町地区区長会（石塚4区、5区、6区、7区、大堀区）の区長5人が協力。木材の選定から加工、設置に至るまで可能な限り手作業で行い、2月11日に立派な山門が完成しました。石塚5区の綿引芳紀区長は、「県道石岡茂木線を常北中入り口信号から約300m南下し、左側にある御影石の門を左折すると一段低いところにピカピカの山門が見える。近くを通った際には、ぜひ一度訪ねてみて欲しい」と話していました。



坏小児童クラブが開所しました

町では、児童が安全で安心して放課後を過ごせるよう、また、保護者も安心して働けるよう「児童クラブ（放課後児童健全育成事業）」の設置を進めています。石塚小、小松小、七会東小に続き、2月26日には坏小児童クラブの開所式が行われました。

放課後児童クラブに通う子どもたちは、学校が終わると児童クラブに向かい、家庭で過ごすのと同じようにおやつを食べたり、休息したり、宿題をしたり、友達と遊んだりして過ごします。5人の児童を代表して、猪野龍一くんは、「友達と仲良くしていきたい」と笑顔で話しました。



愛育会ひなまつり

母子愛育会ひなまつりが、桃の節句をひかえた2月26日に、常北保健福祉センターで行われました。就園前の在家庭の子どもと保護者、約50組が参加。梅やカーネーション、牛乳パック、折り紙などを使って親子で楽しく飾り付けを行い、華やかなひなまつりアレンジ工作ができました。

また工作の後は、ひなまつりの歌を歌ったり読み聞かせを楽しんだり、子どもたちは大喜び。最後に、野菜やすいとんのたくさん入った「愛育汁」とおにぎりが振る舞われ、親子でおいしそうに食べる姿が見られました。



公民館合同ステージ発表会

公民館講座で学んできた成果を発表する「公民館合同ステージ発表会」が、2月24日にコミュニティセンター城里で行われました。当日は、あいにく強風の荒れ模様でしたが、多くの方が会場を訪れました。

ステージでは、常北地区、桂地区、七会地区より公民館講座を中心に17組約200人が参加。歌や踊り、楽器演奏など、日頃の練習の成果を披露しました。客席からは、艶やかな舞台に思わずため息が漏れ、大きな歓声が鳴り響く賑やかな発表会となりました。



城里町子ども会大会

平成19年度城里町子ども会大会「演劇鑑賞会」が、3月2日にコミュニティセンター城里で開催されました。大変好評だった昨年度に引き続き、水戸芸術館劇団ACMの皆さんによる演劇「モチモチの木（作・斎藤隆介）」の公演を、城里町子ども会員300人が楽しみました。昨年度とは異なる光・音・舞台装置など様々な演出に子どもたちは時折大きな声をあげる場面もあり、有意義な時間を過ごしました。総合芸術としての演劇に身近に触れ、俳優の演技を通して様々なことを、発見したり考えたり感動したりと、今回の公演は子どもたちの心に残るものとなったでしょう。

